

今日は暑くてムシムシした一日だった。たくさん汗をかいて体がべとべとだったので早くお風呂に入りたかった。先約がいた。兄だ。兄があがるのを待ち、私に順番が回ってきた。シャワーの蛇口を捻ると、水がぼたぼた。嫌な予感。水が出ない。また断水だ。

私の地域では、今年に入りもう三回目の断水だった。水道管の老朽化による漏水が原因だ。なぜ前回の漏水の時、新しい水道管に変えなかったのだろう。お風呂に入れぬ悔しさと、これから数時間断水になる不便さを考えると、怒りがこみ上げた。

数日後、私は新聞で興味深い記事を見つけた。「老朽配管事故後絶たず」記事によると二〇二二年度全国の水道管破損や漏水は計二万件に上る。自治体の財源確保が急務だが、必要な予算は住民から徴収する料金収入が元手だ。私が住むような、人口減少が進む過疎地域では水道料金による収入が細り、配管更新の原資捻出が困難になっている。水道管更新、人口減少、どちらも私の住む地域が直面している問題だった。私は、自分が身近で直面している問題が全国的にも問題となっていることに驚いた。それが私の住む地域だけでなく、全国的な問題であれば、国や自治体が何か解決策を模索しているのではないかと興味がわいた。調べると、地方財政措置という言葉にたどり着いた。地方公共団体が財政的に困難な状況の場合その運営を支援するための制度で、税金を使うことができる。人口減少で水道料収益が少ない地域にとって、水道管更新の費用を住民の水道代のみから捻出するのは困難だ。地方財政措置をとることで過度な水道料の上昇を抑え、住民に負担をかけずに水道管更新が可能になるのではないか。光が見えた気がした。

これからどんどん人口が減少していく中で税金を無駄なく、いかに効率的に使っていくかが重要になってくると考える。

「トリアージ」とは、医療現場で患者の治療優先度を判断する仕組みだ。これからの日本で、税金の使い道もトリアージの概念が必要だと思った。限られた予算「税金」を適切な優先順位でどう分配するのか。例えば、教育・医療、生活インフラのどれに多く分配すべきか。公共サービスの中でも緊急性が高く、社会全体に広く影響を与える分野がどこなのか。税金を無駄なく効率的に使うために、各自治体がどのような基準でトリアージすべきか考えていくことが必要になると思う。

私ができることは、しっかり税金を納めることだ。まだ中学生なので、消費税などの少ない額だ。しかし、みんなの少しずつが大きな額となって、税のトリアージによって本当に必要とされているところに優先的に公平に分配されることへの第一歩だと思い、納税したい。